

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地
TEL&FAX:0595 (21) 8839

E-Mail: iga-ken@iga.ed.jp



研修講座 A-2 「外国語科・外国語活動②」を実施しました！ 「小中でつなぐ英語の指導—言語活動を通して 児童生徒の英語力を伸ばすために」 【講師】 文教大学 教授 阿野 幸一 さん



7月27日(月)に「外国語科・外国語活動②」の研修講座を行いました。
冒頭、次期学習指導要領における言語活動のポイントもご教示いただきました。それはコミュニケーション活動とそれを支える活動を重要視し、「考えや気持ちを伝え合う言語活動と正確さを高める練習をつなぐ(往還する)指導が必要」という点です。知識だけを入れても活用できる「正確さ」は伸びません。それを身につけるには、



インテイク(取り込む・身につける)の時間の確保、つまりは練習が必要です。「目的・場面・状況のある練習、言語活動につながる練習」が大切ということで、教科書本文を使って実際に演習をしていただきました。阿野先生から「漆塗りのようにくり返す」ことが言語活動を支える基礎力となると教えていただきました。その中で、できるようになったことを見つけ指導することが、子どもたちの達成感や自己肯定感の涵養を図ることにつながることもご示唆いただき、そのためには「安心してまちがうことができる」風土の醸成が必須であるとも感じました。加えて私たち指導者が「新出事項」の学習という発想から「既習事項のくり返しの中に、一部新出事項が含まれるという考え方」にシフト転換することで、より英語の蓄積に意識して取り組めるのではないかと感じました。

受講いただいた先生方には今後の実践に活かしていただくとともに、各校で還流いただきますようお願いいたします。

アンケートより【一部抜粋】

- ・ただ語句や文法を覚えるのではなく、コミュニケーション活動やそれを支える練習をくり返して、実用的に入れていくことが大切だと改めて感じた。定着には、普段から使うような実践的な場面や内容を伴う形での学習が効果的だと強く感じた。小学校の段階での「書くこと」について、どの程度すべきか悩んでいたところがあったが、まずは「音と文字の一致」や「聞くこと・読むこと」を重点的に取り組むべきだとわかり、安心した。今後もフォニックス等を中心に英語の音と文字に慣れさせたい。ついついできないところに目がいきがちなので、子どもたちのできているところに目を向けて、楽しく自信をもてるようにしたいと感じた。【小】
- ・次期学習指導要領について、わかりやすくポイントになるところを理解できた。文脈から切り離れた単語指導をしたり、新出文法・語句ばかり注視していたりした点も今の自分の指導方法と重なるところがあり、改善すべきだなと感じた。2学期からの授業で取り入れていきたい。【中】
- ・沢山の音をインプットし、くり返し同じ言葉に触れさせるのが大切だと再認識しました。どんどん先に進むより、知っている文や単語に出合う事が喜びや自信につながり、英語がすきになると感じた。阿野先生のお話はいつも楽しいです。【ALT】